

学びあい育ちあい推進審議会 令和元年7月定例会要点録

令和元年7月18日（木曜）

出席委員	学校教育の関係者	
	委員	關口 寿也
	委員	山川 毅
	社会教育の関係者	
	委員	青木 ひとみ
	家庭教育関係代表	
	委員	鵜澤 千秋
	委員	大原 立江
	学識経験者	
	委員	梅澤 佳子
	委員	炭谷 晃男
	公民館利用者代表	
	委員	浅井 智子
	委員	野口 享子
	公募市民	
	委員	鯨井 俊彦
	委員	水島 穂乃香
	図書館協議会代表	
	委員	玉木 康平
欠席委員	委員	小泉 良司
	委員	内野 秀重
出席職員	教育部長	須田 雄次郎
	教育企画担当課長	加藤 大輔
	永山公民館長	北方 静史
	関戸公民館長	安達 仁
	図書館長	横倉 妙子
	文化・市民協働課長	古谷 真美

(開会時刻：14時30分)

議事録署名委員：關口委員

議事次第・配布資料

〔報告事項〕

- 1 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第1回拡大役員会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 1】
- 2 地域学校協働活動・教育連携支援事業について・・・・・・・・・・・・ 【資料 2】
- 3 第五次多摩市総合計画第3期基本計画について・・・・・・・・・・・・ 【資料 3】
- 4 公民館事業進捗状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 4】
- 5 公民館施設使用状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 5】

〔協議事項〕

- 1 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会委員の推薦について・・・・・・・・ 【資料 6】
- 2 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第3ブロック研修会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 7】

〔連絡事項〕

- 1 ポッチャ2020TAMAカッププレ大会の開催について

会 長： 本日欠席の委員は、内野委員、小泉委員である。青木委員が少し遅れるが、ただいまの出席委員は11名で、定足数に達しているため令和元年多摩市学びあい育ちあい推進審議会7月定例会を開始する。会議録署名委員は関口委員にお願いする。

教育企画担当課長： —（配布資料の確認）—

会 長： 本審議会の後に、地域学校協働活動推進委員会が15時30分から開催予定であるため、15時過ぎに本審議会が終わるよう、議事進行にご協力願いたい。

〔報告事項〕

- 1 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回拡大役員会について・・・・・・・・ 【資料 1】

教育企画担当課長： 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第1ブロックから第5ブロックまでの全ブロックの研修会計画が出揃ったので、報告させていただく。それぞれの幹事市は、第1ブロック日の出町、第2ブロック国分寺市、第3ブロック多摩市、第4ブロック清瀬市、第5ブロック調布市であり、研修会は10月から11月にかけて開催される。第3ブロックの研修テーマについては、本審議会で協議・検討の結果、「学びと活動の循環をつくる—学校・家庭・地域の連携・協働について—」である。なお、第4ブロック清瀬市の研修会テーマは「学校支援本部について」となっており、多摩市と近いテーマになっている。各ブロックから参加希望の調査があれば、委員に連絡させていただく。

また、今年度の関東甲信越静社会教育研究大会は埼玉大会であることも併せて案内させていただく。

会 長： 第5ブロック調布市は、演劇を通じて不登校問題を考えるユニークな研修テーマである。また、昨年から開催市に余裕があれば他ブロックの研修会にも参加できる仕組みになっているので、興味があれば他ブロックの研修会にもご参加いただきたい

い。逆もしかり、他ブロックの社会教育委員が第3ブロック多摩市の研修会に参加することも考えられる。また、関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会は11月に川越市で開催され、時間があれば私も参加したいと考えている。

全国社会教育委員連合の会費値上げが5月の総会で決定されたことの報告も拡大役員会であった。値上げに至るまで、東京都市町村社会教育委員連絡協議会は各理事へ意見照会し、多摩市としては経費削減をした上で会費値上げは最終手段であるとの意見書を提出した。全国社会教育委員連合では、経費削減をこれまで重ねてきた上でこれ以上する余地がないことから、総会で会費値上げの決議がとられた。これを受け、各自治体が苦しい財政状況の中で会費を捻出していることを考慮して、東京都市町村社会教育委員連絡協議会は各ブロックの活動費60,000円から6,000円ずつ削減することで対応する策を検討している。次の理事会で協議することになると思うが、経過について報告させていただいた。

質疑・意見 なし

2 地域学校協働活動・教育連携支援事業について・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 2】

教育企画担当課長： まず初めに、昨年度の教育連携支援事業の実績（資料2-1）について報告させていただく。各学校に配置している教育連携コーディネーター（以下「コーディネーター」）を統括する役割である地域教育力支援コーディネーターの活動について、国士舘大学との連携により市内小中学校に派遣した学生ボランティアは19校312人であり、校数は減少しているが人数は増加している。地域の団体やイベントには3件に対して人材の派遣を行った。教育連携支援事業については、平成30年度は市内全小中学校26校にコーディネーターを配置したとともに、平成29年度に試行で行った地域未来塾を全小中学校で本格実施した。コーディネーターが活動しやすい環境を作るため、本審議会委員も委員として参加した教育連携支援事業推進委員会及び研修を2回実施した。内容としては、コーディネーターの意見を取り入れながら学校や地域に対して活動を周知するためのツールである広報誌を作成した。教育連携支援事業に関わっているボランティア数については、地域未来塾が本格実施したことから、延べ人数が大きく増加している。

地域未来塾については、昨年度参加した児童・生徒、学校、学習支援員に対してアンケート調査を行い、A学習習慣、B基礎・基本の定着、C態度・意欲、D学力向上の4つの区分についてそれぞれの傾向を分析した。本事業のねらいは、基礎学力の定着及び学習習慣の確立であり、小学校の先生方と学習支援員がかなり肯定的に捉えている一方、児童は一人ひとり感じ方が異なることが分かった。C態度・意欲の部分では学校側がかなり肯定的に捉えている。D学力向上については、地域未来塾の取り組みのみで学力向上を図ることは難しく、活動を支援する学習支援員と成果をシビアに捉えている児童・生徒とで回答が分かれた。今後は見直しをしながら事業を継続して実施していく。

今年度については、以前要綱制定の際に本審議会で説明させていただいたが、「教

育連携支援事業」から「地域学校協働活動推進事業」に名称を変更した。活動状況（資料2-2）については、全小中学校に地域学校協働活動推進員またはコーディネーターが配置されている。網掛けになっている学校は地域学校協働本部に移行した学校であり、現時点は3校である。活動内容は大きく①学校活動、②環境整備、③地域未来塾、④地域活動に分類し、○は実施している活動を示し、△は今年度計画している活動を示している。詳細な活動内容は資料をご確認ください。また、5月30日に地域学校協働活動研修として「学校の環境整備から始まる教育」（資料2-3）を実施した。花壇整備等の環境整備活動を行っている学校が多いことから、多摩永山中学校に会場を借り、恵泉女学園大学から講師をお招きして実技指導の研修を行った。小学校5名、中学校4名のコーディネーターを始め、本審議会の玉木委員及び地域学校協働活動ボランティアの計19名が参加した。他校で同様な活動をしている方と交流し、「地域学校協働活動の狙いがおぼろげながら理解できるような気がしました」等の感想をいただいた。

委員： 地域未来塾のアンケート調査の結果（資料2-1）について、資料の読み方がわからないので、説明をお願いしたい。

教育企画担当課長： 昨年度、地域未来塾の成果を把握するためにアンケート調査を行った。（1）定性的な成果把握では選択式により回答し、「1 そう思う・2 どちらかというと思う」は肯定的な回答として、「3 どちらかというと思わない・4 そう思わない」を否定的な回答として集計している。参加児童・生徒、学校、学習支援員それぞれに対して異なる5項目の質問を設けている。この5項目を先ほど説明したAからDの4つの区分に分類して肯定的または否定的な回答を集計した。

委員： 1から4の選択肢とAからDの区分の関係性がよくわからない。例えば参加児童・生徒に対する質問①「授業が分かるようになってきた」への肯定的な回答がどれくらいだったかを知りたいが、区分Bにどのようにカテゴライズされているのか。

教育企画担当課長： 「授業が分かるようになってきた」に対して、「1 そう思う・2 どちらかというと思う」の肯定的な回答をした割合が、小学校では81.5%、中学校では65.1%というように資料を見ていただきたい。

委員： それぞれの質問に対する選択肢の回答結果を見たいと感じた。例えば、参加児童・生徒に対する質問④「学校の授業以外での勉強時間が増えた」と学校に対する質問②「宿題をやるようになった」がともにAにカテゴライズされているが、質問同士を関連付けることが難しいように思う。

教育企画担当課長： 事業全体の傾向を示すためにこちらの資料を用意した。細かい部分になってくると点を突く話になるので本日は資料を用意していない。

会長： 本日の資料からは、参加児童・生徒と学校、学習支援員との間に感じ方の違いがあることがよく分かった。ただ、無理に全体と比較せずに個別の回答状況を取り出しで見ると、今後様々な場面で活用しやすいデータになるということの一つの意見として受け止めていただきたい。

委員： どのように関連付けたら良いのか説明を聞くまでわからなかったこともあり、選択

肢が4つであれば、肯定か否定かにまとめずに回答結果をそのまま出した方が分かりやすいように思う。表現の仕方を検討していただきたい。

教育企画担当課長： 分析の中では選択肢4つそれぞれの回答状況を活用している。みなさんからの意見を踏まえて今後の参考にしていきたい。

会 長： 活動を支えている先生方と学習支援員の意見も大切だが、実際に参加している児童・生徒の声が重要である。

委 員： 5月に開催された地域学校協働活動研修に参加し、ガーデニングの初心者でも研修内容がよくわかった。また、参加した方々は普段から花壇活動をしており、すぐに溶け込み共同作業ができた。講師の先生からは、もともと生えている雑草も大事にしてナチュラルな配列を心がけることやパーク堆肥を使う、移植後は一番花を切るなどの指導があった。いくつかの例示を通じて、園芸においては自然との共存を目指した植物との付き合い方が大事であると話されていた。教育面においても、園芸を通じて日常生活におけるエコロジカルで自然の摂理に基づいた考え方の大切さを伝えていきたい。

会 長： 委員として現場の様子を見ていただくことはとてもありがたい。今回は水島委員も参加されていたので、私を含めて他の委員も機会があれば小中学校で実際の活動に参加していただきたい。

3 第五次多摩市総合計画第3期基本計画について・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 3】

教育企画担当課長： 多摩市の行政計画の中で最上位に位置づけられる第五次多摩市総合計画第3期基本計画が6月3日からスタートした。第五次多摩市総合計画は概ね20年後を見据えた基本構想とそれを実現するための基本計画から構成されている。前回改定を行った平成27年度以降の社会経済動向等を踏まえて新たな基本計画を策定したものである。

基本構想に変更はなく、将来都市像「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」として目指すまちの姿が6つ示されている。第3期基本計画策定の背景として、人口減少社会、社会構造変革の可能性、SDGsの取り組み等の社会動向のほかに、高齢化率の上昇の見通し、公共施設等の更新としてパルテノン多摩の大規模改修や図書館本館の再整備、持続可能な財政構造を構築して将来世代に引き継ぐための行財政改革を継続する多摩市の状況がある。目指すまちの姿6つにそれぞれ対応してAからFの政策が掲げられ、教育委員会の取り組みとしてはA2と社会教育の部分ではC2が該当する。また、第3期基本計画では第2期基本計画でも主として取り組んできた「健幸まちづくり」を基盤となる考え方として位置づけ、特に重点的に取り組むべき行政課題である①超高齢社会への挑戦、②若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり、③市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくりについて、全庁で分野を横断して取り組むことにしている。

具体的に取り組んでいく施策として、政策A2「人と学びを未来につなぐまちづくり」では学校教育の中で確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進、児

童・生徒の学びを支える環境づくりには地域学校協働本部の取り組みが該当する。政策C2「豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり」では社会教育に関して記載している。詳細は、冊子の44ページ以降を確認していただきたい。

冊子の8ページでは、持続可能な開発目標SDGsの推進について記載しており、子ども・若者たちが未来に希望を持ち続けることができる持続可能なまちづくりを実現していくため、総合計画に基づいて各分野別の施策を統合的に推進していくことで、SDGsの達成に向けて寄与していく。

また、本審議会から意見をいただき、現在教育委員会で策定中の（仮称）多摩市新教育振興プランについては、多摩市第五次多摩市総合計画第3期基本計画との関連を図りながら進めていく。

質疑・意見 なし

4 平成30年度公民館事業報告について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 4】

5 平成30年度公民館施設使用状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 5】

永山公民館長： 1「市民企画講座」の前期応募では7団体が応募し、21回の講座を予定している。応募があった7団体のうち3団体が子育て関係の団体であり、市民の関心の高まりが感じられる。後期応募は8月から始まる。3「地域課題講座」は永山公民館と関戸公民館が共同実施している事業であり、愛宕かえで館、貝取こぼし館、関・一つむぎ館、ゆう桜ヶ丘の4つのコミュニティセンターで講座を開催した。関・一つむぎ館では親子を対象に工作の講座、そのほか3館では笑いヨガの講座を開催した。どの講座も非常に好評で、コミュニティセンターも多くの方に参加していただき良かったと感じていることから、今後は広げて実施していくことを予定している。10「家庭教育学級・家庭教育講座」では、貝取小学校とすみれ幼稚園で2回の講座を実施した。今後も各学校、幼稚園、児童館等で様々な企画に基づいて講座を実施していく。20「TAMAシネマフォーラム」では、11月の本祭に向けて4月・6月に特別上映会を行った。7月20日には『こどもしょくどう』を上映し、併せてコラボ企画として大妻女子大学の加藤氏と実際に子ども食堂を運営している方をお招きしてシンポジウムを開催する予定である。21「東京2020オリンピック・パラリンピック展」では、ギャラリーで展示を行い、前期日程（5日から12日）では21日のロードレーステストイベントに向けてロードレースを中心に、オリンピックに出場した国士舘大学の方のパネルや1964年に開催した東京オリンピックの映像・記事を展示し、約450人が来場した。後期日程（19日から26日）ではボッチャを紹介する予定である。

関戸公民館長： 1「市民企画講座」に5団体の応募があり、人形劇を中心に活動している団体が「ワークショップ・^{ラボ}研究室」、昨年の地域ふれあいフォーラムTAMAから参加している団体が「ミュージックベルを作ろうーみんな演奏しよう」を企画し、市民活動の充実を推進している。4「子育て安心講座」では、子どもの金銭感覚についてキャッシュレス社会が進み子どもがお金を扱う機会が少ない中、お金にまつわる怖い

お話も交えながら保護者向けの講座を実施した。中でも、リボ払いは借金地獄への入り口になり得ることを学び、実際に利息計算を参加者と一緒に行った。11「関戸地球大学院」は、市内にある多摩大学・恵泉女学園大学・大妻女子大学が連携して6回開催し、AIやSDGs、認知症高齢者が事故を起こした際の法律問題等の具体的なテーマについてお話しいただき、最終日に取り上げた韓国側から見た日韓問題は定員60人を超える申し込みがあった。12「市民講座I」の「やさしい英語で道案内」は、講座終了後も独自グループが勉強会を行っている。18「地域イベント協力事業」として、7月に朝顔市に合わせて市民ロビーやホールでコンサートを開催し、高齢者や車いすの方もご来場いただいた。

永山公民館長： 5月の全体の使用率は64.3%であり、昨年5月の使用率67.4%より3.1%下がった。本審議会5月定例会でも報告させていただいたが、5月初めの大型連休の影響を受けていると考えられる。実際に、ベルブホールについては昨年64.4%の使用率に対して今年度は40.0%と大きく減少しており、連休中出かけることが多い中イベントを実施することが難しかったと思われる。

6月の全体の使用率は68.7%であり、昨年6月の使用率が68.9%であったことから同じようなところで推移している。

関戸公民館長： 昨年5月の全体の使用率57.4%に対して今年5月の使用率は54.6%であり、永山公民館と同様に大型連休の影響を受けていると考えられる。

6月の全体の使用率は59.0%であり、昨年6月の使用率60.8%から若干減少しているが例年並みである。ヴィータホールについては、昨年60.7%に対して今年67.9%となっており、5月に使用しなかった団体が6月に使用したと考えられる。

質疑・意見 なし

〔協議事項〕

1 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会委員の推薦について・・・・・・・・・・ 【資料 8】

文化・市民協働課長： 第4次多摩市生涯学習推進計画を策定するにあたり、策定委員会委員を2名、貴審議会に推薦していただきたい。多摩市では、第3次多摩市生涯学習推進計画を平成23年に策定し、10年間の計画になっていることから令和2年を以て終了する。引き続き生涯学習社会の実現と総合的な生涯学習を推進する施策の指針として、新たな第4次多摩市生涯学習推進計画を令和3年からスタートするものとして策定するにあたり、幅広い見地から検討いただくために第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（以下「策定委員会」）を設置する。設置期間は令和元年6月から令和3年3月31日までであり、所掌事項は、策定委員会設置要綱第2条に基づいて推進計画の策定に関する事項等を検討し、その結果を多摩市生涯学習推進本部に報告する。委員の構成としては、学識経験者2名、貴審議会委員2名、多摩市内において生涯学習に係る活動を行う者4名、教育に関する法人または組織に属する者1名、公募市民2名の計11名の体制で考えている。開催予定は、設置期間中9回程

度を予定している。委員会の庶務は、くらしと文化部文化・市民協働課で進めさせていただく。貴審議会には、特に社会教育施設である公民館を利用して社会教育活動を行っている公民館利用者代表の委員から1名、地域文化を振興する活動を広く行っている委員から1名の計2名の委員の推薦をお願いしたい。推薦期限は7月31日である。

会長： 推薦期限が7月末までであることから、本定例会で決めたい。公民館利用者代表の委員としては浅井委員と野口委員が該当するが、浅井委員にはかつて平成28年度に多摩市使用料等審議会から委員推薦を依頼された際に推薦した経緯があることから、今回は野口委員をお願いしたいが、いかがか。また、地域での文化活動では多摩市文化団体連合の理事長である青木委員が適当と考えるが、いかがか。

質疑・意見 なし

会長： それでは、野口委員と青木委員を本審議会から推薦し、お願いしたい。

2 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について・・・【資料 1】

教育企画担当課長： 10月5日に開催する令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会（以下「研修会」）について、各市に送る開催通知（案）を示させていただいた（資料7-1）。時間は13時30分から16時、場所は関戸公民館大会議室である。研修会テーマはこれまでの協議を踏まえて「学びと活動の循環をつくる一学校・家庭・地域の連携・協働について」である。開催要項（案）の次第では、開会の挨拶を炭谷会長、開催市挨拶を清水教育長からいただいた後、第1部の事例発表では、前回定例会で課題の整理が必要という意見を踏まえてテーマを「多摩市の地域学校協働活動の取り組みと課題について」とした。構成としては、地域教育力支援コーディネーターから多摩市全体の取り組みについて、続いて今年度からコミュニティ・スクールを導入した多摩中学校の校長及び地域学校協働本部の代表にそれぞれの立場からお話しいただく。第2部の情報交換は、前回いただいた意見をもとに会長と調整し、研修会テーマに沿って参加している各市の社会教育委員がお話ししやすいテーマにするということで、幅広く「学校・家庭・地域の連携・協働について」に設定した。組み立てについては、前回20分ずつ席替えして2回情報交換することになっていたが、一人の発言時間が短いとの指摘があったため、席替えなしで45分間グループワークを行い、その後各グループで話し合われた内容を共有する場として発表の時間を15分間入れた。最後に、次期開催市挨拶を町田市に、閉会の挨拶を大原副会長をお願いしたいと考えている。

研修会を開催するにあたって、役割分担表（資料7-2）に基づいて役割分担をお願いしたい。当日の流れについては、12時30分に集合していただき、13時から受付開始し、13時30分から16時の間に研修会を開催して16時30分に解散予定である。役割については、開会の挨拶を会長に、閉会の挨拶を副会長をお願いしたいと考えており、この他には司会1名、受付3名を決めていただきたい。今後各市に研修会の開催通知を送り、参加人数が確定したところで第2部の情報交換

するグループ分けを行い、8月定例会で報告させていただく。役割分担を決めていただく前に、研修会に出席される委員の確認もお願いしたい。

会 長： これまで複数回協議してきた研修会について、詳細が決まりつつある。開催要項（案）のとおり、第1部は地域教育力支援コーディネーター・校長・地域学校協働本部代表の話を通じて多摩市の地域学校協働活動の取り組み状況を知っていただく。第2部では各地域での実践例を共有していただき、実際に活動していない方にはやってみたいこと、希望、期待、夢等について意見交換ができればと考えている。みなさんには各グループのファシリテーターとして司会進行をお願いしたい。発表者や記録者については、次回定例会でグループ人数が確定してから話し合いたい。役割分担について、開会及び閉会の挨拶は会長・副会長からさせていただく。司会は、事務局から水島委員がお引き受けくださると聞いたが、いかがか。

委 員： はい。

会 長： よろしくをお願いしたい。続いて、受付をしていただける方はいかがか。担当する事務局の方が一括して受付することが多いので、各市の事務局とのやり取りになると思う。

委 員： 私と野口委員は普段から公民館を利用し、会場に詳しいことから立候補する。

委 員： よろしければ、残る1名に立候補する。

会 長： それでは、梅澤委員・浅井委員・野口委員をお願いしたい。
続いて、研修会当日の出席者を確認させていただきたい。出席の方は挙手してください。

—（挙手全員）—

委 員： 10月5日の午前中に東京駅伝の抽選会があるため、おそらく間に合うと思うが少し遅れる可能性がある。

会 長： みなさん出席されるということで、当日よろしくをお願いしたい。
次回8月定例会では、みなさんが各グループのファシリテーターになるということで、その準備と練習を兼ねて同じテーマでワークショップをしてみたいと思うが、いかがか。

委 員： 主催市の委員として各グループに入って司会進行することに不安を感じており、同じグループ内の方が普段どのような活動をしているかについて、大型名刺のようなものを用意して自己紹介をすることから始めるのはいかがか。話題を作りやすい似顔絵や自分を動物に例えるなら何かというようなコーナーがあると話のきっかけになって良いのではないか。これを聞いてみたいなと思えるように視覚的に見えるような仕掛けがあると良いと思う。

会 長： アイスブレイクも兼ねて良いと思う。他にも意見があれば、次回試してみて本番にも活かせるように事務局と調整していきたい。参加される方は日頃の活動について伝えたい気持ちからお話したいことがたくさんあると思うが、発言者が偏らないよう参加者全員がお話できて満足度を上げられるようなアイデアを出していただきたい。

- 委員： 事前準備をどのくらいしたかがグループワークの45分間にとって大事である。ワークショップは様々なやり方があるが、やっておしまいではなく「来てよかった」と思えるものにしたい。各地域で行われている様々な学びについて共有することが目的であれば、先ほど視覚的という話のとおり、あらかじめ紙の資料があると事前に読むことで議論が空中戦にならない。前回話した際に、事務局から事前に参加者の情報を収集することが難しいということだったが、その場で書くと活字にならない部分もあり、事前に書いてくることで自分の中での整理にもなる。この活動を経てグループワークをすることで深まった議論ができると思う。大変なことも多いが、時間をかけたいところである。
- 会長： 参考にさせていただきたい。
具体的な進め方については、よくあるポストイットを使って模造紙に貼り付けて意見を整理するなど様々なやり方があり、次回の定例会で検討していく。
- 委員： 会長からお話あった第2部の情報交換で実際に活動していない方は、希望、やってみたいこと等についてお話しいただくということだが、抽象度が高いため次回定例会でグループワークをするときに考えていくということか。ポストイットを使ってどのようなグループワークにするかが見えづらいが、具体案は次回練習する中で考えていくのか。次回どのような方法で進めるかについて話し合いをするのか、または実際にワークショップをするのかで大きく異なる。
- 会長： 後者のワークショップ形式で実際に練習し、分かりづらい点については話し合いを通じて改善していく。グループワークの人数も当日想定される人数に近いものでやってみたい。
- 教育企画担当課長： ご意見をいただいてどのようにしていくかを決めていくのが良いと思う。事務局で仕立てるのはあまり良くないと考えている。
梅澤委員からのご意見について、参加される他市の社会教育委員があらかじめ書いてくださるとありがたいと感じるが、参加のハードルが高いと受け取る方もいるのか読み切れない部分がある。会長と調整していきたい。
- 委員： 絶対というわけではないが、伝え方、表現の仕方によって和らげられるのではないかと。資料が事前に参加者の手元に届いていなくても、書いたものを当日集めて第1部の間にコピーして第2部の前に配布するというやり方も考えられる。
- 会長： 個人の情報を事前に収集する部分が難しいように感じる。各地域・学校でどのような地域学校協働本部を立ち上げているのか、校数等に関する一覧表は作成できるかもしれない。当日来てから書かならば、あまり多くの項目については答えられない。
- 委員： 個人情報という意味であれば、研修会終了後に資料は持ち帰らずに事務局で回収するやり方もある。

〔連絡事項〕

1 ボッチャ2020TAMAカッププレ大会の開催について

教育企画担当課長： 1月の本審議会後にみなさんに体験していただいたボッチャについて、これまで市

内で広めてきており、東京2020パラリンピックを前に来年春に大会を開催することを考えている。それに向けて、今年10月19日土曜日にプレ大会を開催し、7月20号のたま広報にて参加者を募る予定である。子どもから大人、障害のあるなしに関わらず参加することができる。場所は、バリアフリーと冷暖房を完備している都立多摩桜の丘学園の体育館である。また、聖蹟桜ヶ丘にあるトヨタ西東京カローラの協賛を得てボッチャセットを10セット提供していただき、市内児童館及び公民館等に置いて体験会等で見て触れることができる体制を整えている。他にも、東京多摩ロータリークラブの協賛を得ている。大会実施にあたっては、実行委員会形式で進めており、青少年問題協議会や国士舘大学、社会福祉協議会、児童館に協力をいただいている。現在ポスター作りについて、体育の授業でボッチャを取り入れている鶴牧中学校の生徒にお願いしており、今後公共施設に掲示するとともに次回8月定例会で示させていただく。

質疑・意見 なし

会 長： 本日の配布資料の中で、委員が関わっているイベントがいくつかあったので、それぞれの委員から簡単に説明していただきたい。

委 員： 多摩市文化団体連合では、設立40周年を機に多摩市の子どもたちに文化体験をしていただきたいことから「夏まつり文化体験会」を実施してきた。これまでは単独で関戸公民館を貸し切って開催していたが、他の市民が公民館を利用できなくなることから、今年度はラスカル子ども映画祭と同日に開催することで両方のイベントの充実化を図った。また、原価がかかる体験があるため例年は参加費500円だったが、今年はラスカル子ども映画祭に合わせて参加費無料である。

委 員： 平成元年から人形げきまつりの活動を関戸公民館で行っており、昨年で30周年を迎えた。年号も改め令和元年から、人形劇の枠をさらに広げて多くの方に参加し、楽しんでいただきたいことから「こどもフェスタ」と名付けた。子ども対象ということではなく、参加する方が子どものような楽しみをいつまでもという思いを込めている。また、市民企画講座として「ワークショップ・研究室」を開催し、全5回の講座を通じてワークショップとは何かについて考えていく。10月の研修会もあることからみなさんにもご参加いただきたい。

委 員： 7月21日に自転車競技ロードレースのテストイベントが開催されるのに合わせて、多摩大学多摩キャンパスで応援イベントを実施する。午前中は、国士舘大学の田原先生に「オリンピックを通じての国際交流、国際理解」についてご講演いただく。公民館やコミュニティセンターでこれまで自転車に関連するイベントを行ってきたことから、少し異なる視点からオリンピックを紹介させていただきたい。メダルの数や選手たちの人生をかけた戦いも感動的だが、スポーツを通じての平和や国際交流、国際理解に関する講演を聴きながらオリンピック本来の意味について考えていきたい。講演会後は、南多摩尾根幹線道路から選手たちの応援もできる構成になっている。

会 長： 以上で、本日の予定は全て終了した。次回は、8月22日木曜日14時30分より、
第二庁舎会議室で行う。

(1時間43分)

(閉会時刻15時13分)

会議規則第10条第4項によりここに署名する。

令和元年10月17日

会長

委員